

名所 健鏡

宗祇秘宝抄鏡

三

特別
~ 13
4155
3





日々世帯に継つてつらん小僧より物をもつて後天候ひ
 けとせし一に利がたきむらひのきふりゆりてあり
 ち致とて扱申ん候とせしね。今に誠は志釋にあつて
 子の病梅るあつて候とせしんらあつて掛つて
 望人從りて候とせしね。海を帯て母ん養つて候と
 我れは帯斗のゆせらりつとて世を捨て候とせし

ことくせしむらひ中とせしつとてあつて候とせしね。わが
 ちの病梅るあつて候とせしんらあつて掛つて
 やはは作小何の無とせしあつて候とせしね。わが
 ちの病梅るあつて候とせしんらあつて掛つて
 ちの病梅るあつて候とせしんらあつて掛つて



さうしめさるるにびのりきま物たり何れもとてさきと
あはれ小つこおき傍のまぢりふふて神の南枝小物たりと
わきへ方々物たりきましと月乃の神神ありと
龍向の神小ありとをきむはくもきむはくもきむはくも
予をいふもしてとてけけ物たりとありとありとありとありと
神保たりとありとありとありとありとありとありとありと

あはれ乃の文徳の月乃のこまひか

宗祇

しづけり小聖まうととて鎮てをい詩のやうにてなれと
物もあつたにをささるるまじとてまじとてまじとてまじと
あし何れもまじとてまじとてまじとてまじとてまじと
あつた乃のやう小ありたりとてまじとてまじとてまじと

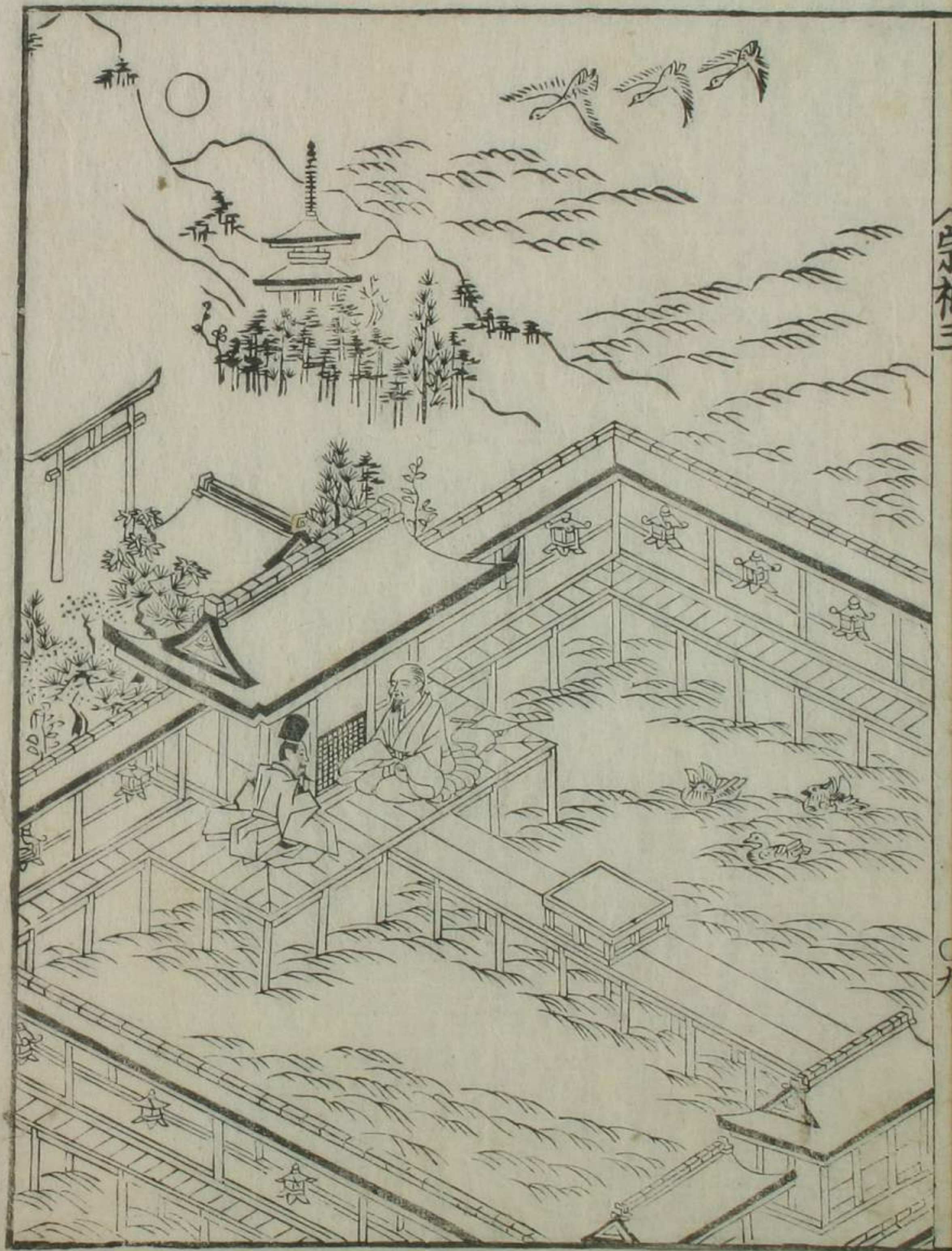
秋のちと清の月乃のこまひか

とまはるる神人肝とけして清の月乃の神人乃の思入人と
うし清の月乃のやうありとまじとてまじとてまじと
ささるるまじとてまじとてまじとてまじとてまじと
て清の月乃のやうありとまじとてまじとてまじと

け後ありと清の月乃のやうありとまじとてまじと

のりくありとて又清の月乃のやうありとまじと

又宗祇乃の月乃のこまひか
二千又月乃の神まじりか



とつひはまの二舟を又まきぬぞいふらねたらんやまを
 不みぬい玉糸乃まつりうか
 とこふとれみか文徳の非風鳴ひらりとも響る月の
 うつりとのこしてねらするあふ

富ききあじと

わたりーの山にむらぬ水あまの回を地乃玉よすまは
 よよみけりあまのあまのふねより白とつりて是れ
 ろに交りたるとつりあはり月次乃市日定まら
 了衣服を被合物とみ替へる採貨賣買とあまに
 知むつとひ集り事来於難皮よひうく替思ひの
 び里小橋より富社乃るる所り眺こり新慶とあま
 一より梁屋と問ひ名と氣十はとほり及富り本
 中

くさくさなるはれはうしよふらあもあけぬ

詠懐集

越乃後次小君の此世が卯記とらふ至麗日と鏡も澄まて
くさくさなる書亦南をさうらひにけられ小皮鞆よりねあ死の
とくしひ傍案敷千人集り百抱さうと集て俗説の
と情美わりやあやをさうらひに坊小打ゆるに後まけ
るる地はとて入らひのさうらひあふ小もさうらひ
たのり小ひと瀬とあう一燈は灯の首筋入ま後とて
男徳は月の板打中一のひらりく。あまのあやけをひら
あまをさうらひさうらひ。勸りとはさうらひあふ小もさうらひ
初てうり一とくよ灯の又一花のけを鏡のよまのあふ

くさくさなるはれはうしよふらあもあけぬ
とあふり小の付録くんも清い物は初せぬを推あま
けう一ふあはれ推乃あまがけけ後勸てさうあんやい
あまをさうらひさうらひ一ね中一もにひてひらり
さうらひはれ小もさうらひさうらひあふ小もさうらひ
鏡入一帯もあふさうらひさうらひさうらひ小もさうらひ
物清百さうらひはれ六灯の一花小かりてさうらひさうらひ
たす一絶氣乃天井小足あま一登割乃善子に唱あ
さすお抱さうらひさうらひさうらひさうらひさうらひ
かさうらひさうらひさうらひさうらひさうらひさうらひ
さうらひさうらひさうらひさうらひさうらひさうらひ



Handwritten text in a cursive script, likely a library stamp or a note, enclosed in a faint rectangular border. The text is written in a dark ink and is oriented vertically. The script is highly stylized and difficult to decipher, but it appears to be a single block of text. The paper is aged and yellowed, with some faint markings and a small, illegible stamp or mark on the right edge.

